

陸 総 号
平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 様

北海道陸別町長 金 澤 紘



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付国道企第 37 号で依頼ありました標記については、別紙のとおりです。

（総務課企画財政室）

本町は、過疎化が著しい中山間の酪農と林業を主産業とする自治体ですが、現在、都市圏と中山間・農漁村との地域格差・生活格差は著しいものがあります。中山間・農漁村は食糧等を生産し都市圏に供給していますが、中山間・農漁村は一般国道、高速道路(高規格道路)整備に遅れがあります。

人口が少ないからと道路整備(国道・道道)に対し、費用対効果だけを求め都市圏に集中した道路整備が進められているのが現状だと思えます。国民が安全に安心して暮らすことは、国家には非常に大事なことです。

都市圏と生活・地域格差をなくし、過疎地域でも食糧等を生産し安心して住み続けられる国道等の整備が必要だと思えます。

高速道路(高規格道路)も都市圏を中心に進められ、過疎地域・中山間農漁村は後回しになっているのが現状だと思っています。高速道路等は全線が繋がりにネットワーク化されて本来の目的が達成されると思います。高速道路等の整備は、第三者機関の意見を聞くことも大事だと思えますが、現実の問題としての整備が必要だと思います。(小利別北見間は整備が進められていますが、足寄小利別間は当面着工しない区間とされています。)更に、費用対効果を上げるためにも速度制限(100 km/h)のアップを求めます。

面積が広い本町では、国道は、地域における生活・物流輸送・観光としての基幹道路であります。北見・網走方面から帯広方面への大型車両の通行も増大しており、国道の拡幅・線形改良は交通事故等を防ぐうえから大変重要です。又、本町は鉄路が廃線なり町民の移動手段は公共交通としてのバス(帯広方面・北見方面の2路線)と自家用車両だけです。寒さも厳しく、冬期間の除雪等の維持管理は、交通事故等を防ぎ、救急対応からも大変重要だと思えます。

従って、都市中心の国道等の整備計画でなく、過疎地域・中山間・農漁村でも安全に安心して住み続けるための条件として国道等の整備があると思います。このことは、北海道においても同様です。

今後の道路行政についての意見・提案

②ー1 地域の現状と抱える課題

○現状

○ 国道 242 号線の線形改良

- ・ 帯広方面から陸別市街に入る関地区のカーブがあり、近年の大型車両・観光バスの増大、又、冬期間の圧雪アイスバーンにより通行に支障がある。
- ・ 道道津別陸別線と交差する旧陸別駅前は、交差点が狭いため、大型車両の通行に支障がある。
- ・ 北見方面からの大型車両等の増大により、旧陸別駅前交差点から栄町（北電変電所まで）までの歩道が狭いため、歩行者が危険。

○ 看板等の整備

- ・ ふるさと銀河線が廃線となり、旧陸別駅構内に「りくべつ鉄道」がオープンし、観光施設として活用している。

○課題

1. 国道整備

- ・ 関地区のカーブ解消
- ・ 旧駅前交差点の拡幅
- ・ 旧駅前から栄町までの歩道の拡幅

2. 看板整備

- ・ 国道に設置されている「道の駅」案内板に「りくべつ鉄道」を追加

平成 12 年度策定 第4期総合計画(平成 12 年度から平成 21 年度まで)

「交流と福祉」をキーワードとした創意あるまちづくりを進めることし、「人と自然が織りなす ふれあい里 しばれトピア陸別～」を将来像とする。

基本目標

1. しばれと森林が育む地域産業づくり

陸別で生まれた「しばれ」技術や研究成果、恵まれた森林資源を農林業や商業など地域産業に結びつけ、より付加価値の高い産業へと発展させていきます。陸別のしばれと森林が住民生活の豊かさへとつながるしくみとして、観光やイベントなど町外者との交流の機会やネットワークを活用し、まちで生まれた農林産物や加工品の販売など、消費者の喜ぶ顔が見える環境づくりにも力をそいでいきます。

2. 暮らしと解け合う、心地よい生活環境づくり

心地よい生活環境は、住む人や訪れる人のところを穏やかにします。住民生活の背景に広がる豊かな自然景観と日常的な暮らしの風景が調和し、この地に住む喜びが実感でき、訪れた人々にとっても満足感の高い環境づくりをめざしていきます。また、ハード及びソフト面にわたった障害のない環境作りを進め、すべての人が安心して暮らし、活動できるまちをめざしていきます。

3. 誇りと温かなところ芽生えるまちづくり

教育・文化・スポーツ・ボランティアなど、あらゆる活動の場で、多くの人とふれあう機会を創出していきます。特に、まちづくりや子どもの成長などに大切な人や自然とのふれあいやこの地でしか得られない楽しみや体験などを重視した学校教育や社会教育に力をそそぎ、まちへの誇りと温かなところをもった人づくりを進めていきます。また、年齢や障害のレベルにかかわらず、すべての人が安心して暮らせるとともに、多くの住民によって支えられる福祉のまちをめざしていきます。

4. 豊かなふれあいが築く、ふるさとづくり

人と人がふれあう機会やまちづくりへの参画機会を充実するとともに、参画しやすい環境づくりに努めることにより、老いも若きも、多くの住民がわがまちに対して誇りや愛着を覚え、地域と一体となってまちを考え、行動する住民主体のまちづくりをめざしていきます。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
◎ 高速道路のネットワークの有効活用・機能強化 ◎ 安全安心の確保	■ 高速ネットワークの整備を見据えた広域的な観光客誘致 ■ 高速道路の制限速度のアップ ■ 冬期道路交通ネットワークの確保 総合・専門病院から 30 km以上離れている本町は、幹線道路の通行は命に関わる問題である。また、公共交通としてのバスは、通学・通院に利用する住民に支障がでることから、ネットワーク確保は重要である。 ■ 多様な主体との連携 観光拠点への案内板などの設置	■ 道東道の開通に向け、広域的な観光ネットワークの構築と地域経済への活性化に寄与できる。 ■ 移動時間の短縮が図られる。 ■ 左記の不安解消。 ■ 地域資源たる自然林、観光地への案内板を「道の駅」案内板に付記することにより、地域の活性化に寄与できる。	
◎ 道路政策の進め方			